

図 2-1-2-26 八郎潟および周辺域におけるコガモの月別の日個体数(2004年9月～2014年8月) (注)日個体数=調査区別の10年間合計個体数÷調査区別の調査日数

## (b)オナガガモ

オナガガモの観察結果を図 2-1-2-27～図 2-1-2-29 に示した。オナガガモは、毎年 9 月～4 月に八郎潟およびその周辺域に渡来し、カモ類の中でコガモに次いで個体数が多い。

### ●過去 10 年間の月別個体数とその変化

本種の月別個体数（1 調査日当たり）を比べると、11 月にピーク（10 年間中央値で 71 羽）が見られ、渡去時の 3 月～4 月はコガモ同様少ない（数羽程度）。また、2010 年 11 月、過去 10 年間（2004 年 9 月～2014 年 8 月）の月別個体数／日としては最も多い約 23,000 羽が確認された。

### ●過去 10 年間の八郎潟と周辺域における確認状況

本種は例年 10 月～11 月、周辺域北西部の芦崎に約 7,000 羽～20,000 羽が渡来する。12 月～1 月は、西部承水路や保護区畔周辺で、数 10～数 100 羽が見られ、渡去前の 2 月～3 月には、東部承水路周辺（鹿渡）や調整池周辺（大潟橋、船越）の数個所で 500 羽～7,000 羽記録される。

### ●最近 1 シーズンの八郎潟と周辺域における確認状況

2013 年 9 月／2014 年 8 月シーズンは、本種の記録はなかった。

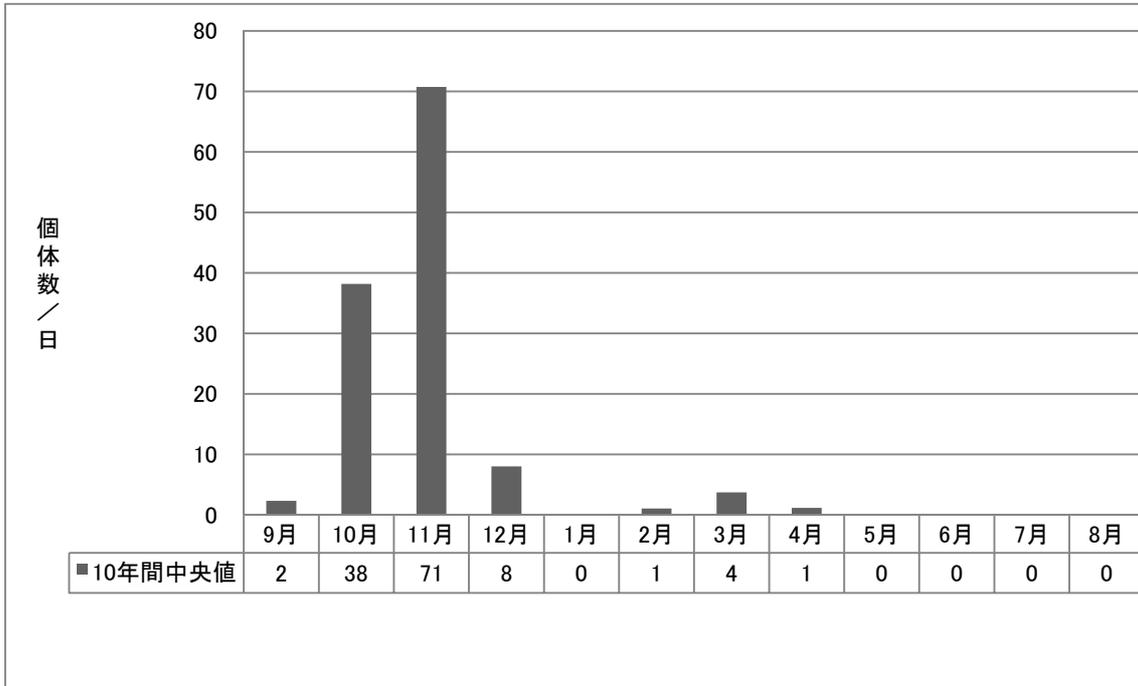


図 2-1-2-27 オナガガモの月別個体数／日の10年間中央値(2004年9月～2014年8月)

(注)個体数／日：1調査日当たりの個体数

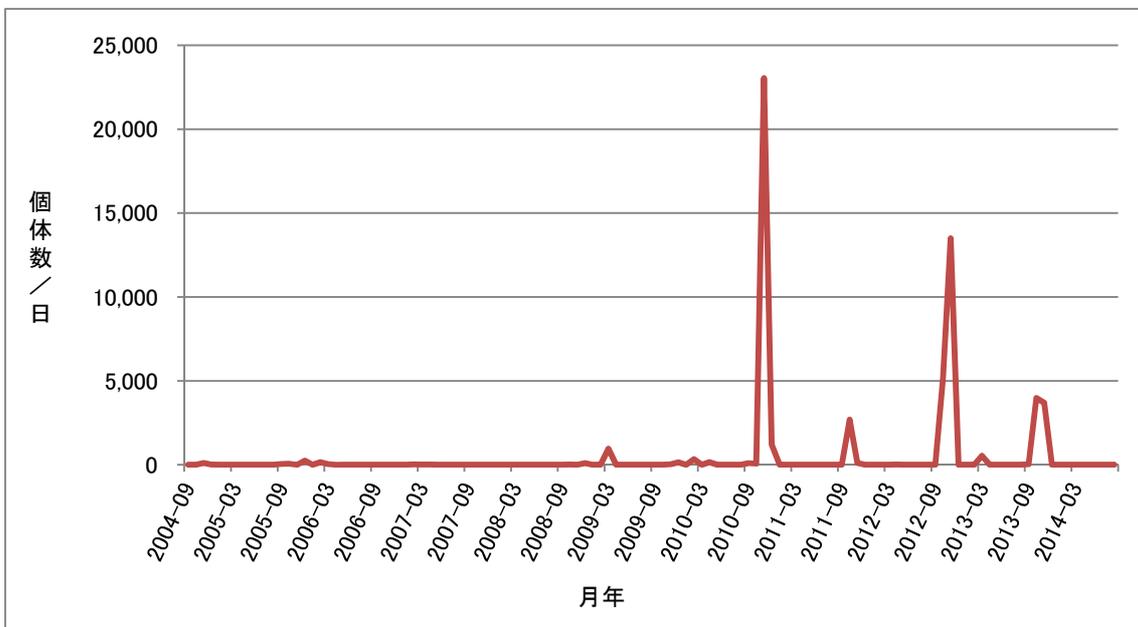


図 2-1-2-28 オナガガモの月別個体数／日の推移(2004年9月～2014年8月)

(注)個体数／日：1調査日当たりの平均個体数

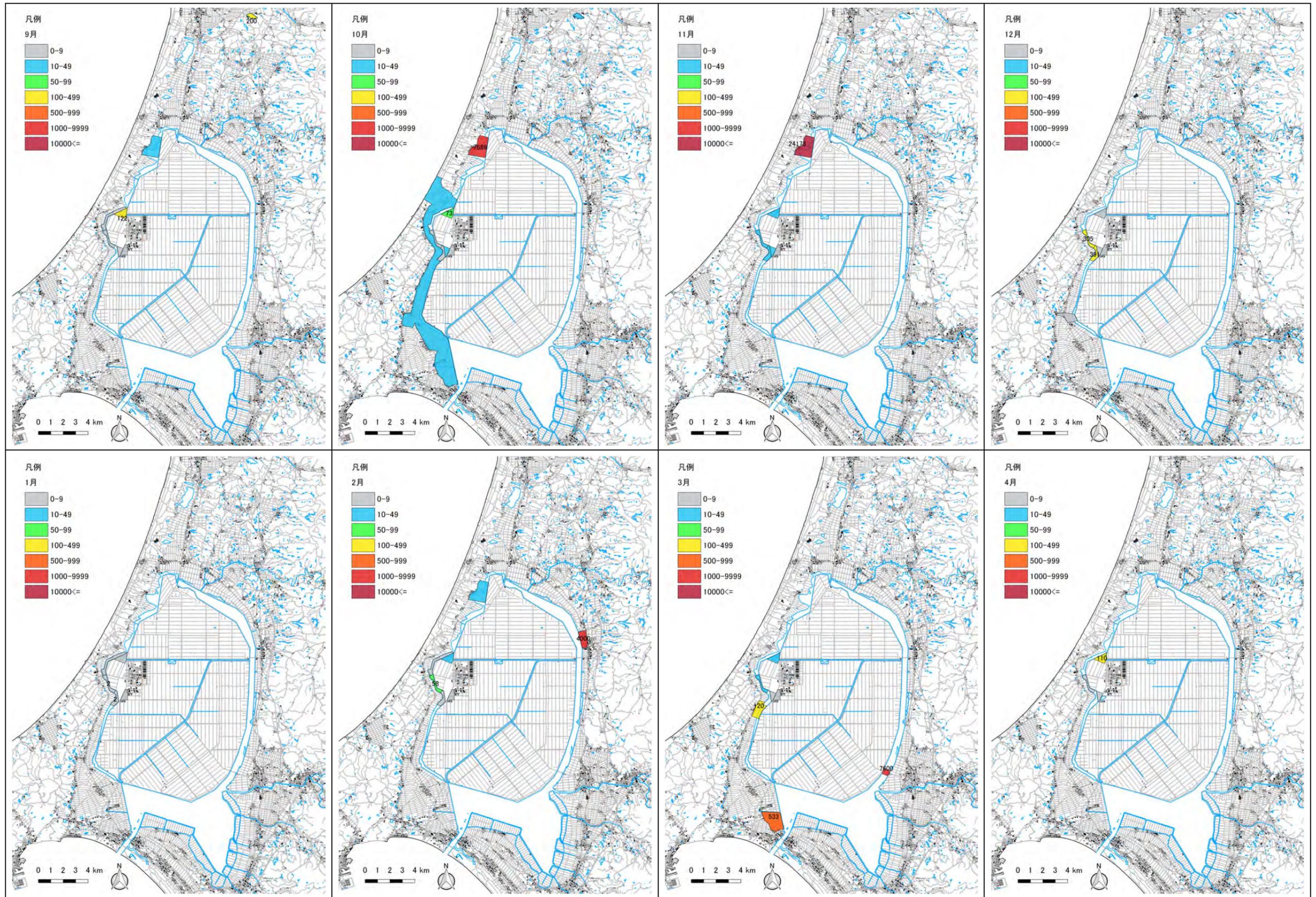


図 2-1-2-29 八郎潟および周辺域におけるオナガガモの月別の日個体数(2004年9月～2014年8月) (注)日個体数=調査区別の10年間合計個体数÷調査区別の調査日数

### (c) マガモ

マガモの観察結果を図 2-1-2-30～図 2-1-2-32 に示した。マガモはカモ類の中でコガモ、オナガガモに次いで個体数が多く、毎年 10 月～4 月に八郎潟およびその周辺域に渡来する。

#### ●過去 10 年間の月別個体数とその変化

本種の月別の個体数（1 調査日当たり）は、渡来時の 11 月にピーク（10 年間中央値で約 360 羽）が見られ、渡去時の 3 月～4 月は、他の淡水ガモ類と同様少ない。また、2010 年 11 月および 2012 年 11 月に過去 10 年間（2004 年 9 月～2014 年 8 月）の月別個体数／日としては最も多い約 13,000 羽を記録した。

#### ●過去 10 年間の八郎潟と周辺域における確認状況

本種は例年 10 月～11 月、芦崎に 3,000 羽～15,000 羽、西部承水路周辺（保護区壱、A36 など）に 200～500 羽が渡来する。12 月～1 月は西部承水路周辺～船越にかけた範囲で数 10～数 100 羽、2 月には芦崎や保護区壱で 110～150 羽、東部承水路周辺（鹿渡）で約 3,000 羽が見られる。渡去時の 3 月～4 月は西部承水路周辺で 200～400 羽が見られる。

#### ●最近 1 シーズンの八郎潟と周辺域における確認状況

2013 年 9 月／2014 年 8 月シーズンは、9 月、A36 に 13 羽、10 月～11 月に芦崎（周辺域北西）などに 5,000 羽～14,000 羽が渡来した。厳冬期の 12 月～2 月は、数 10 羽～200 羽が保護区壱、西区周辺などを利用した。渡去前の 3 月は、A36、西区、福米沢に 90～280 羽が集中した（資料 4）。

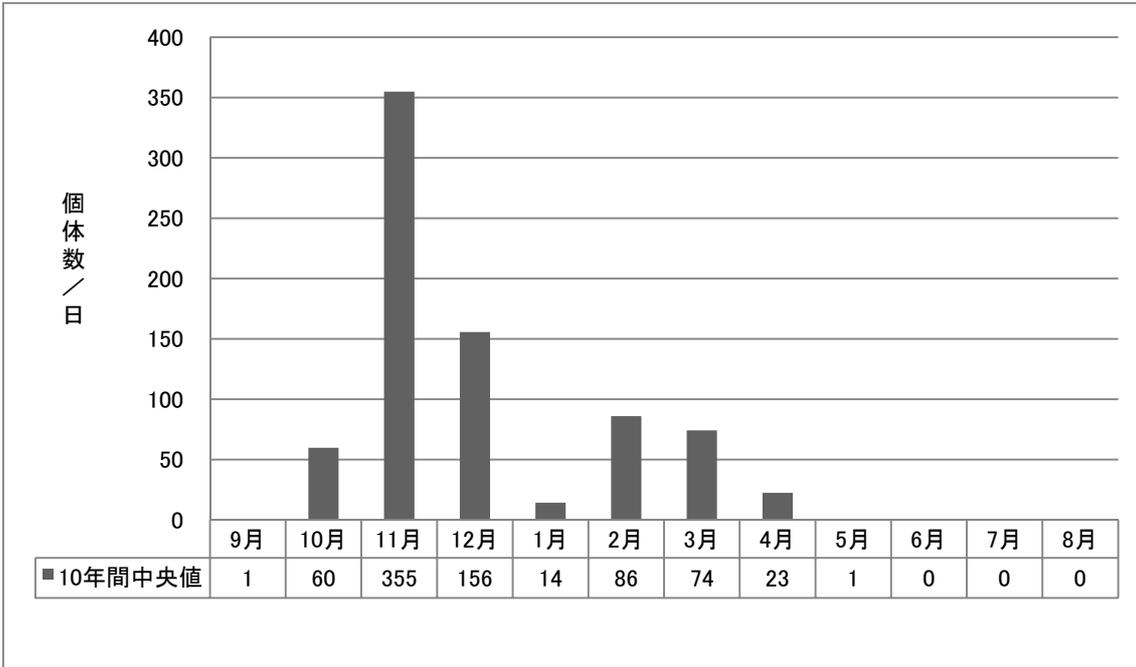


図 2-1-2-30 マガモの月別個体数／日の10年間中央値(2004年9月～2014年8月)

(注)個体数／日：1調査日当たりの個体数

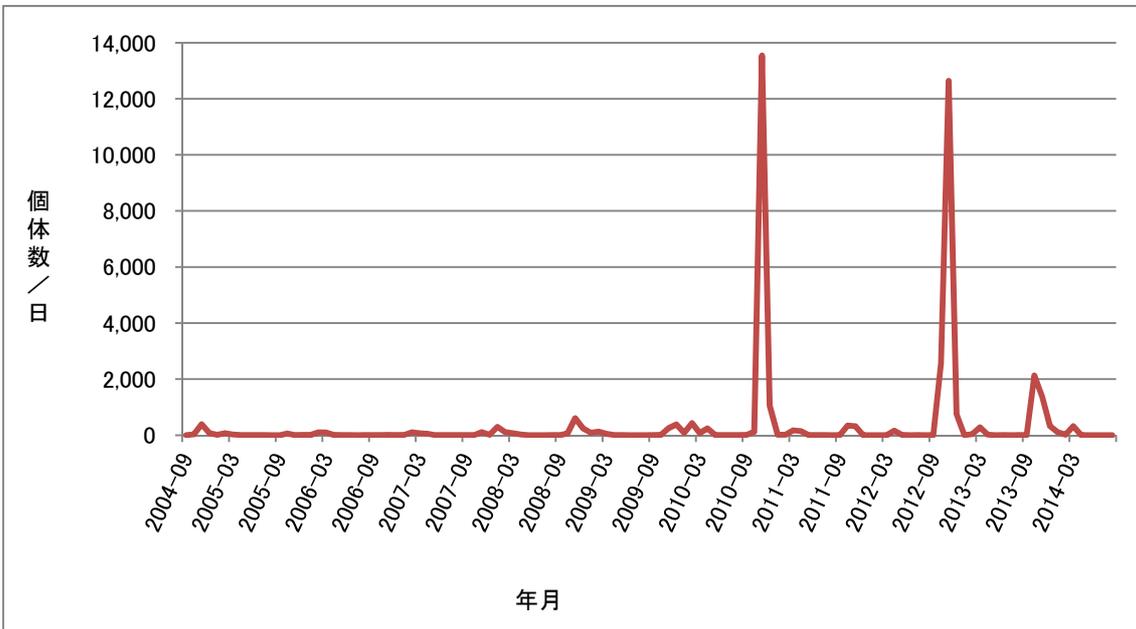


図 2-1-2-31 マガモの月別個体数／日の推移(2004年9月～2014年8月)

(注)個体数／日：1調査日当たりの平均個体数

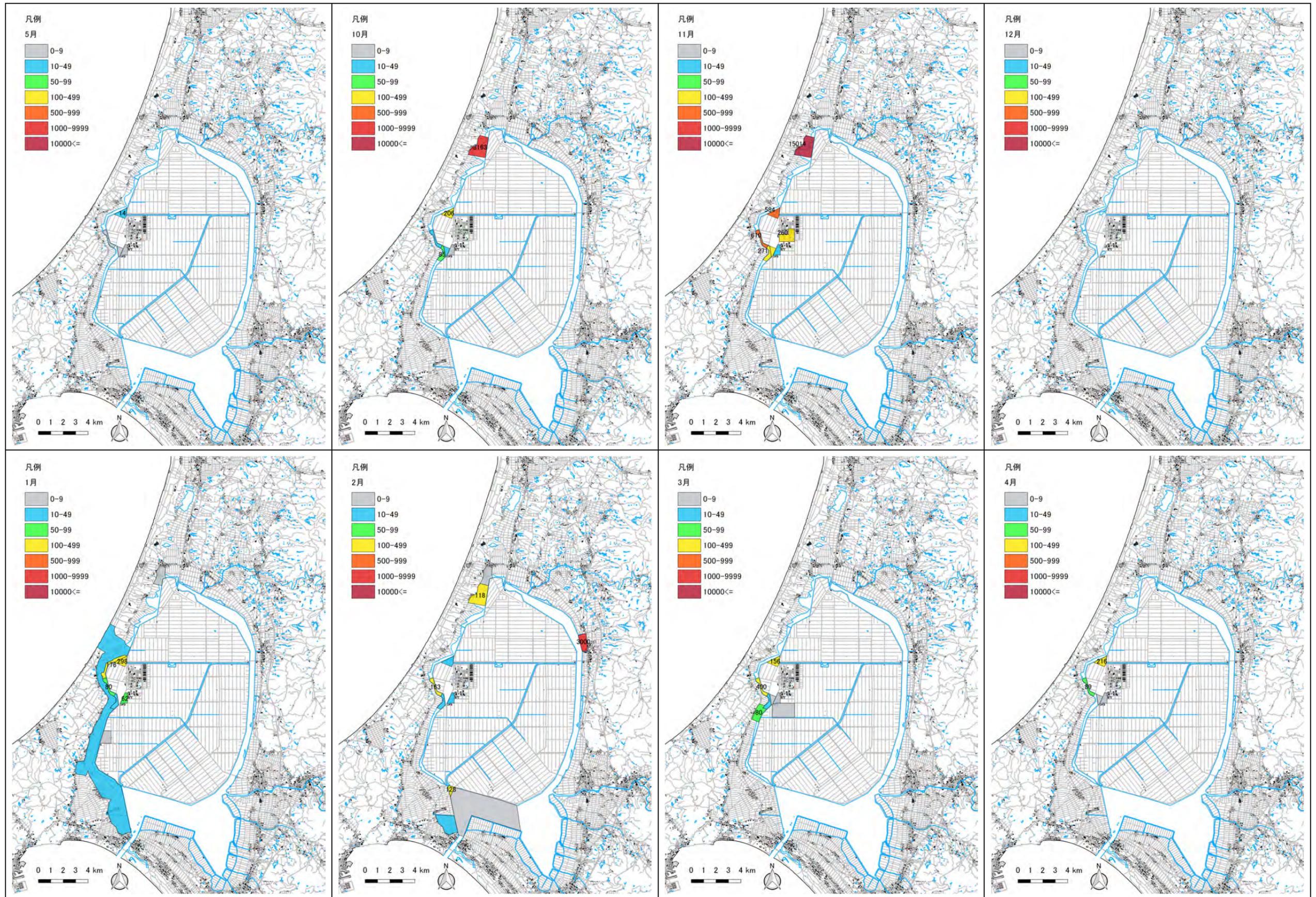


図 2-1-2-32 八郎潟および周辺域におけるマガモの月別の日個体数(2004年9月～2014年8月) (注)日個体数=調査区別の10年間合計個体数÷調査区別の調査日数

#### (d)カルガモ

カルガモの観察結果を図 2-1-2-33～図 2-1-2-35 に示した。カルガモは、他のカモ類と異なり留鳥のため年間を通して当該地にも生息するが、数多く見られる時期は他の淡水ガモ同様、秋（11月）である。

#### ●過去 10 年間の月別個体数とその変化

本種の月別個体数（1 調査日当たり）を比べると、11月にピーク（10年間中央値で約 460 羽）が見られる。また、2010年 12月に過去 10年間（2004年 9月～2014年 8月）の月別個体数／日としては最も多い約 15,000 羽を記録した。

#### ●過去 10 年間の八郎潟と周辺域における確認状況

本種は例年 9月～10月は芦崎、西部承水路や保護区畔周辺、船越などで数 10 羽が見られる。ピークとなる 11月～12月には、西部承水路とその隣接地（東区）で 700～1,100 羽、1月～4月は干拓地内外の主に西側で数 10 羽が記録される。

なお、繁殖期の 5月～8月は干拓地内（A4、A5、A8、D 地区など）で数羽～10 羽が確認される。

#### ●最近 1 シーズンの八郎潟と周辺域における確認状況

2013年 9月／2014年 8月シーズンは、9月～11月に芦崎（周辺域北西部）、西区や保護区畔周辺、本内、祝田橋などで数 10 羽～690 羽確認された。厳冬期の 12月～2月も出現範囲は限られ、数 10 羽～480 羽が大口（周辺域北西部）、保護区畔や西区周辺、祝田橋を利用した。3月は保護区畔周辺に 70 羽～145 羽が見られた。4月～8月は、西区周辺で数羽～数 10 羽が確認された（資料 4）。

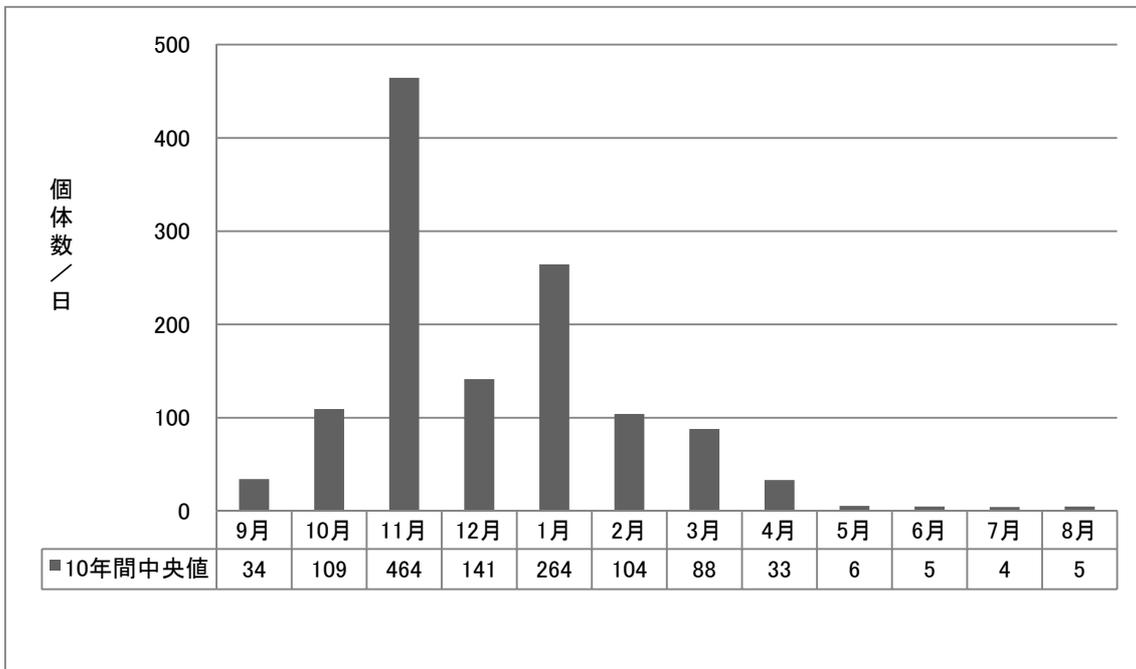


図 2-1-2-33 カルガモの月別個体数/日の10年間中央値(2004年9月～2014年8月)

(注)個体数/日: 1調査日当たりの個体数

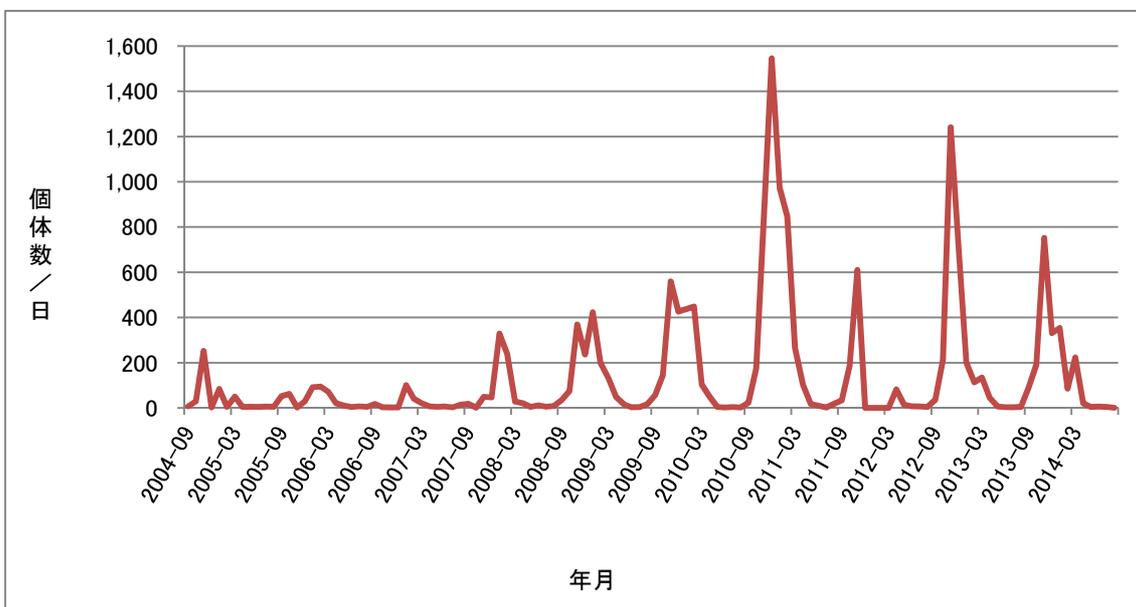


図 2-1-2-34 カルガモの月別個体数/日の推移(2004年9月～2014年8月)

(注)個体数/日: 1調査日当たりの平均個体数

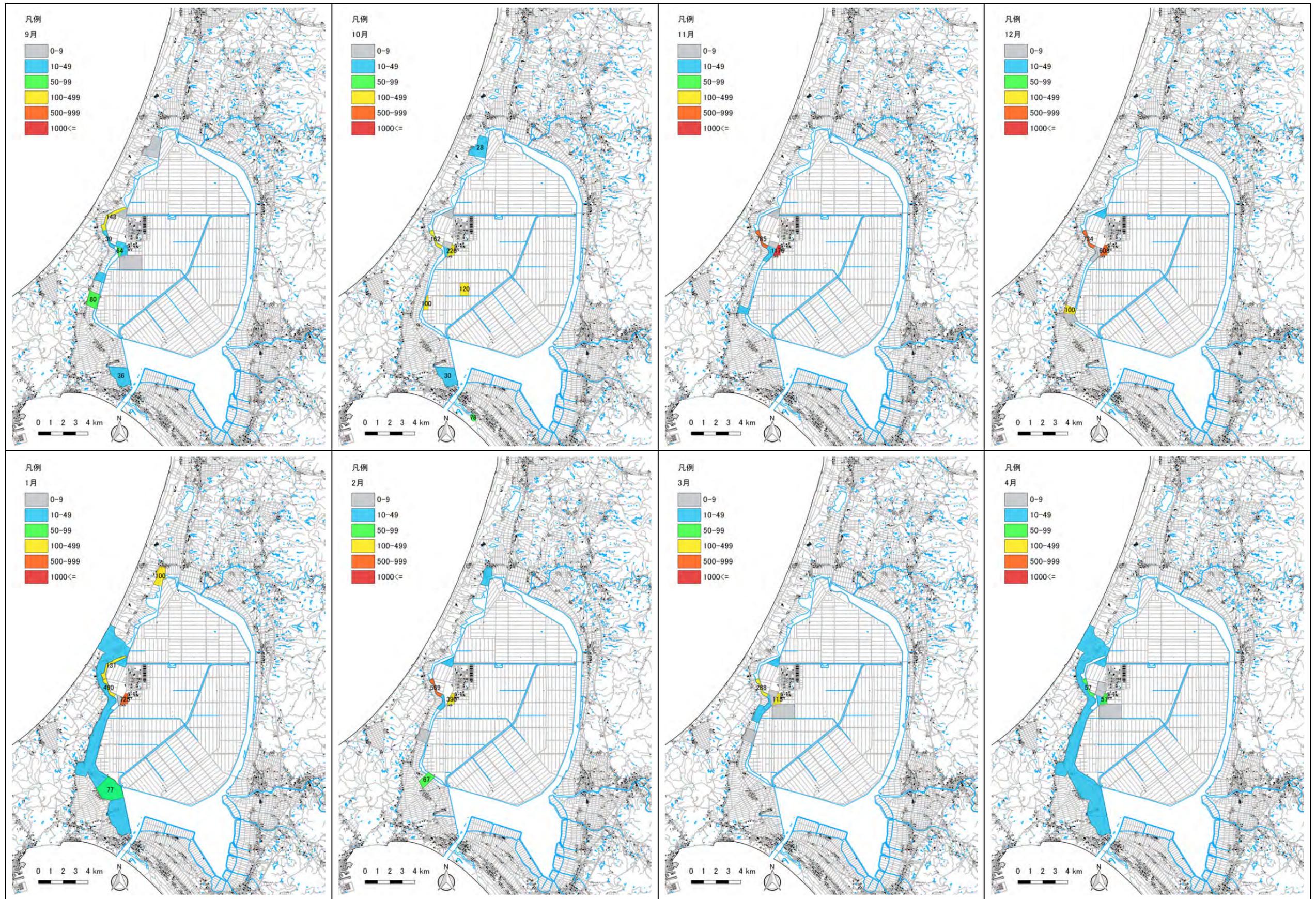


図 2-1-2-35(1) 八郎潟および周辺域におけるカルガモの月別の日個体数(2004年9月～2014年8月) (注)日個体数=調査区別の10年間合計個体数÷調査区別の調査日数

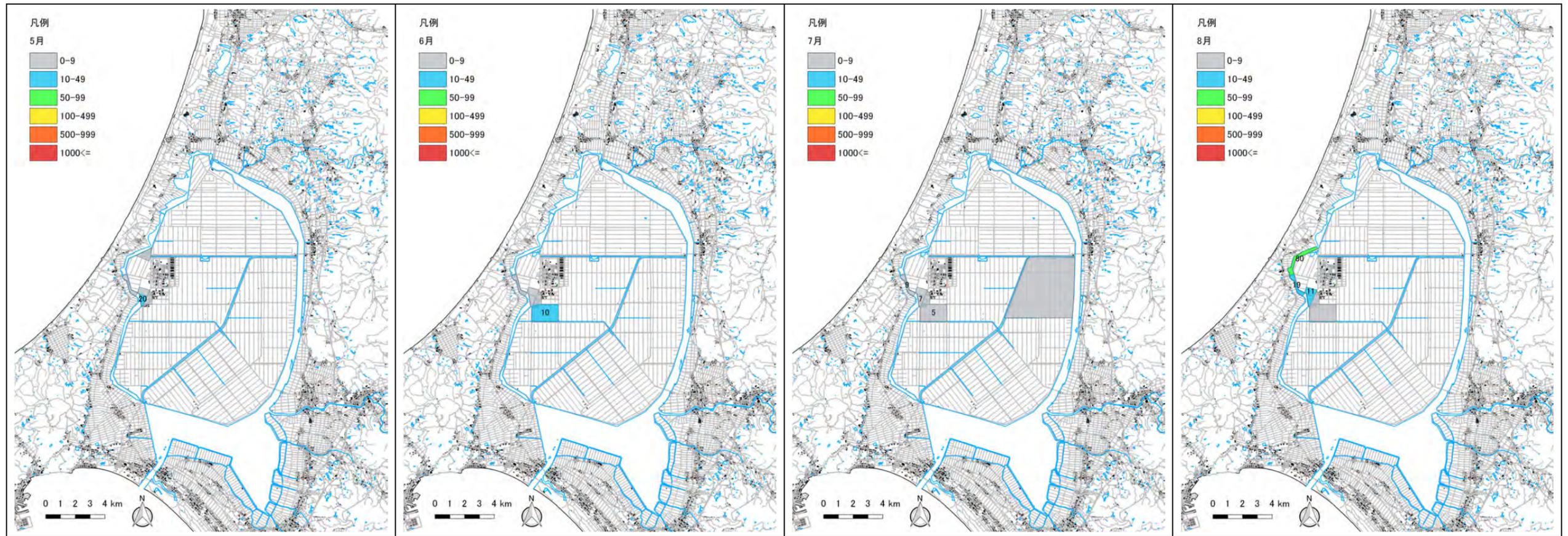


図 2-1-2-35 (2) 八郎潟および周辺域におけるカルガモの月別の日個体数(2004 年 9 月～2014 年 8 月) (注)日個体数=調査区別の 10 年間合計個体数÷調査区別の調査日数

#### (e) 淡水ガモ類

前述したコガモ、マガモ、オナガガモ、カルガモに比べ個体数はかなり少ないがヒドリガモ、ハシビロガモ、トモエガモ、ヨシガモ、オシドリ、オカヨシガモ、シマアジ、アメリカヒドリ、アメリカコガモ、アカツクシガモが記録されている。これら計 10 種のガモを淡水ガモ類としてまとめ、その傾向を図 2-1-2-36～図 2-1-2-38 に示す。

#### ● 過去 10 年間の月別個体数とその変化

淡水ガモ類の月別個体数（1 調査日当たり）を比べると、11 月にピーク（10 年間中央値で約 4,500 羽）が見られる。

2004 年以降の経年変化では、毎年多い時期で 5,000 羽～10,000 羽が認められている。ただし、2010 年 11 月は、過去 10 年間（2004 年 9 月～2014 年 8 月）で最も多い約 55,000 羽が記録された。

#### ● 過去 10 年間の八郎潟と周辺域における確認状況

淡水ガモ類は越冬期、主に西部承水路周辺を利用するが、2 月は東部承水路に隣接する鹿渡、3 月には同じく東部承水路の大潟橋でも大群が記録されている。

#### ● 最近 1 シーズンの八郎潟と周辺域における確認状況

2013 年 9 月／2014 年 8 月シーズンは、9 月～11 月に芦崎（周辺域北西部）、保護区埴周辺、若美の一部（本内～福川、潟端など）に数 100 羽～6,800 羽が渡来した。厳冬期の 12 月～2 月は、数 100 羽が芦崎、西区～保護区埴周辺など比較的狭い範囲を利用した。渡去前の 3 月～4 月も、西区～保護区埴周辺に数 100～900 羽が集中した（資料 4）。

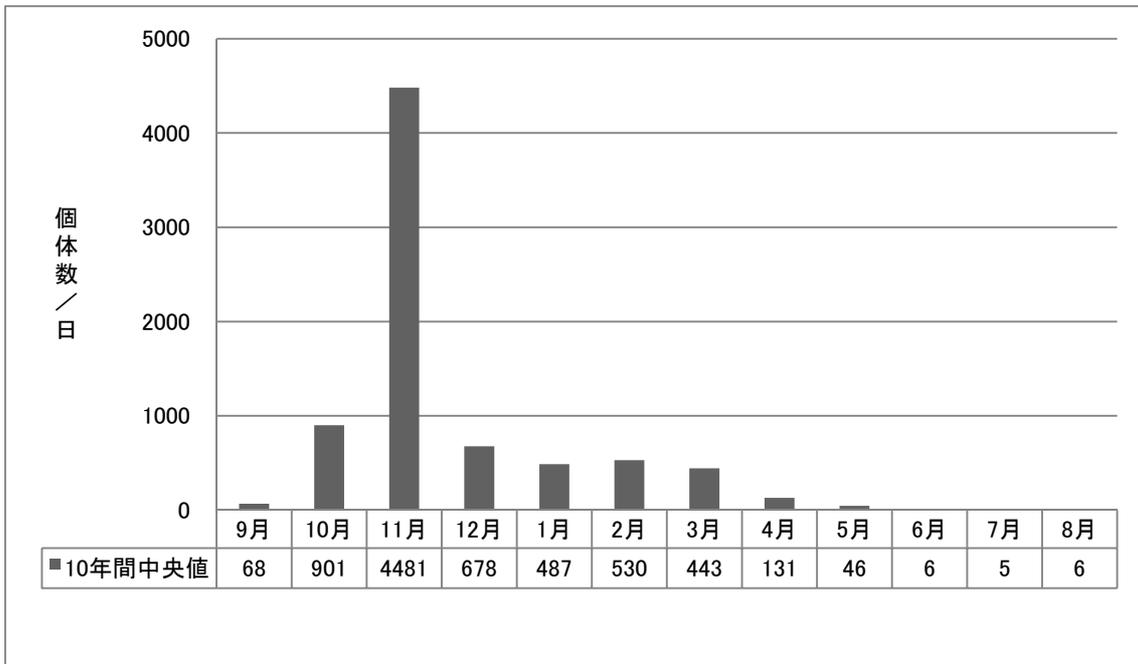


図 2-1-2-36 淡水ガモ類の月別個体数／日の10年間中央値(2004年9月～2014年8月)

(注)個体数／日：1調査日当たりの個体数

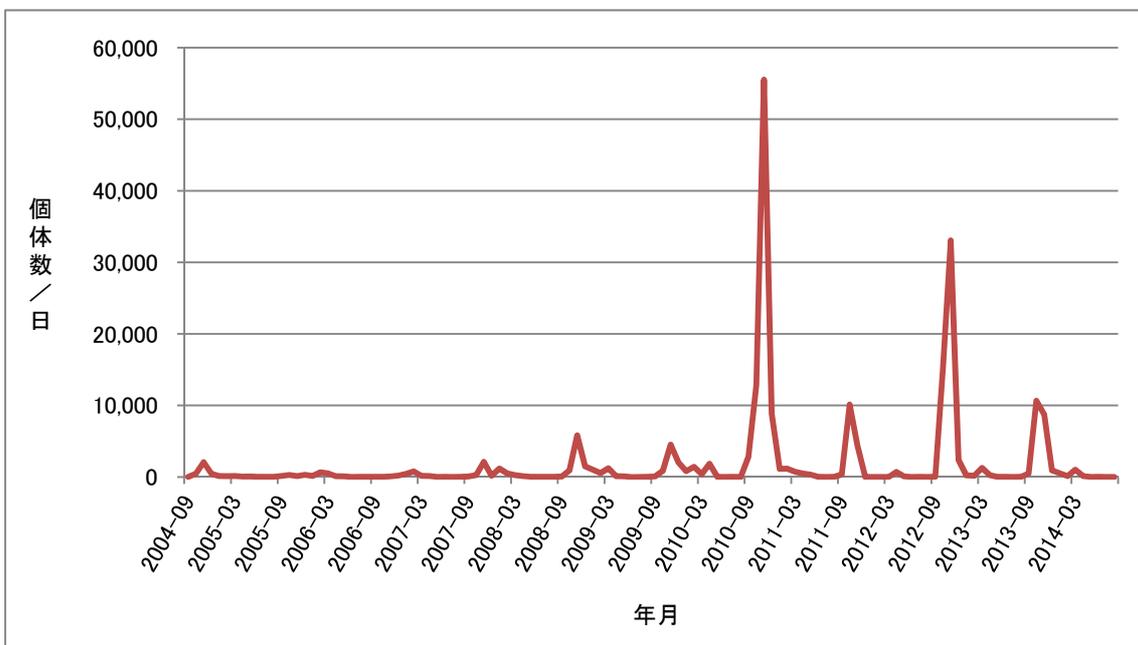


図 2-1-2-37 淡水ガモ類の月別個体数／日の推移(2004年9月～2014年8月)

(注)個体数／日：1調査日当たりの平均個体数

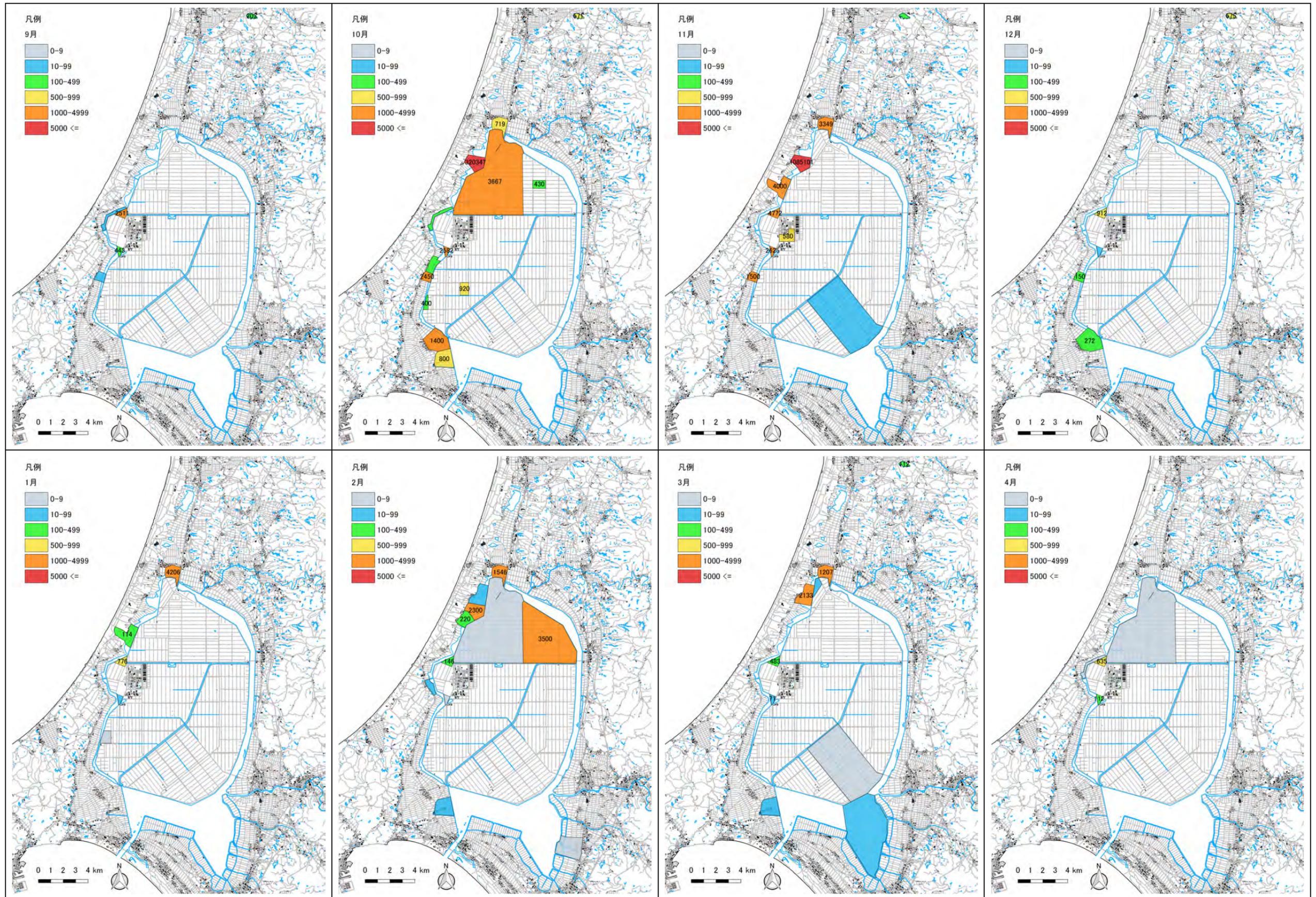


図 2-1-2-38(1) 八郎潟および周辺域における淡水ガモ類の月別の日個体数(2004年9月~2014年8月) (注)日個体数=調査区別の10年間合計個体数÷調査区別の調査日数

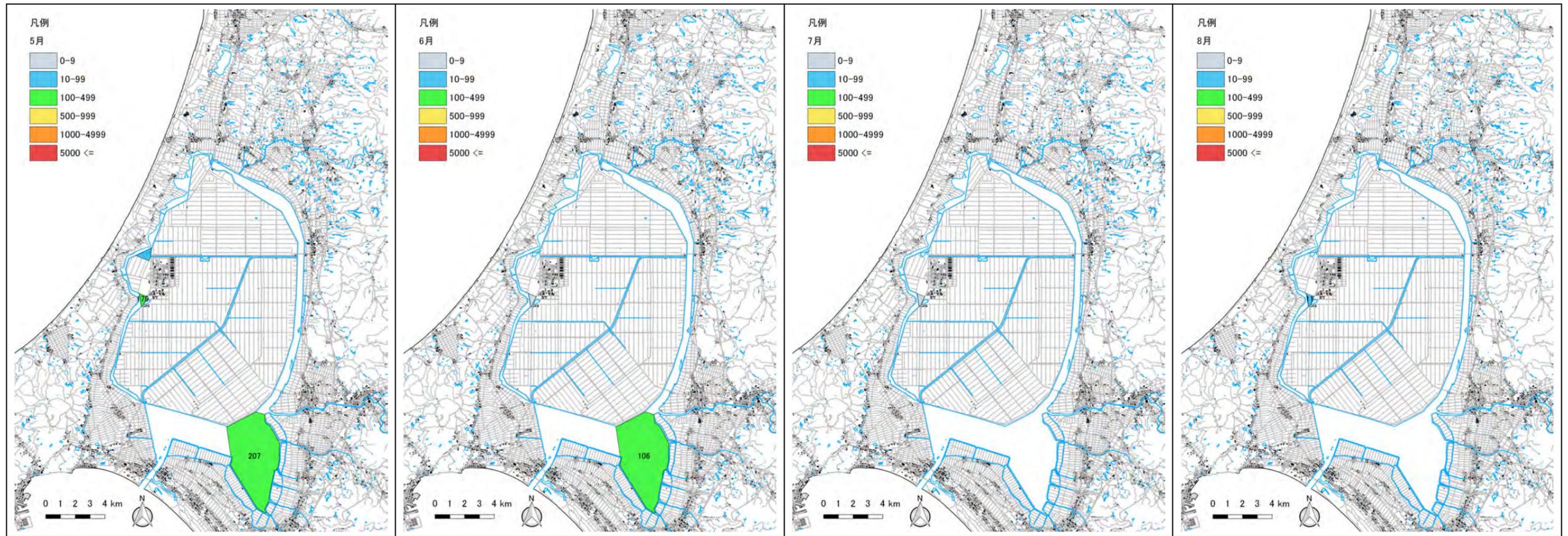


図 2-1-2-38 (2) 八郎潟および周辺域における淡水ガモ類の月別の日個体数(2004年9月～2014年8月) (注)日個体数=調査区別の10年間合計個体数÷調査区別の調査日数